

INDEX:

- ・ 全学FD推進委員長
挨拶 1
- ・ 全学FD研修会報告 2
- ・ 「授業見学」の実施
について 3

全学FD推進委員長挨拶

全学FD推進委員長(副学長・国際教養学部教授)

小池 誠

FD活動は、教育活動の質的向上・発展に関して、組織的かつ恒常的に行う活動を指します。学生にとって少しでも分かりやすく、学びがいのある授業の実現を目指し、活動を進めていきたいと思えます。また、全学的な課題の一つとなっている退学防止についても、FDの観点から改善を目指します。

2018年度の全学FD推進委員会では、「学部・研究科および学内諸組織が行うFDを支援するとともに、全学的かつ恒常的にFDの検討を行い、その質的充実を図る」という本委員会の目的を念頭に、SA・TA制度の改善の検討と、授業改善のための「学生による授業評価」アンケート実施や全学FD研修会など従来取り組んできた業務に加えて、下記のような新しい課題に取り組むことを決めました。

- ・ 学生FD実施の検討
- ・ SA・TA制度とは別の学生スタッフ制度の検討
- ・ 外部(桃山学院教育大学を含む)との連携
- ・ 退学防止の取組の検討(授業の魅力向上を目的とした授業見学の実施等)
- ・ 「合理的配慮」についてFDの見地からの取り組みの検討

本号では、今年度春学期に実施した全学FD研修会と授業見学の報告などを掲載しています。少しでも皆さまの授業改善のご参考になれば幸いです。

これまでのFDニュースや委員会の関連資料は、学内共有Mドライブでも閲覧いただけますので、適宜ご活用ください。

Mドライブ保存先

M:¥00 共用¥2-1 学長室¥13 学長室¥04_FD(ファカルティ・ディベロップメント)

全学FD研修会報告

春学期は「配慮を要する学生への対応を考える」をテーマに計2回のシリーズで開催いたしました。研修会開催の両日多数の教職員に参加いただきました。研修会の概要は以下のとおりです。引き続き教育活動における質的向上とさらなる発展を目指した企画を実施していきたいと思っておりますので、ご協力、ご参加のほどよろしくお願いいたします。



第1回全学FD研修会

日時:2018年6月20日(水)15時から16時

講師:社会学部 教授 安原 佳子氏

准教授 黒田 隆之氏

学生支援課 ボランティア活動支援室職員 鳴瀬 剛大氏

内容:①「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」について

②配慮を要する学生への相談・支援体制について

③キャンパス・ソーシャルワーカー(CSW)の紹介



黒田 准教授

第1回目は、障害者差別解消法の概要や配慮を要する学生への支援体制について紹介しました。本学の対応事例をまとめたサポートガイドを配布し、相談窓口やキャンパス・ソーシャルワーカーの紹介を行いました。学生へ、困ったことがあれば相談窓口へ相談するように促すことや、教員も学生支援の相談に利用できることが説明されました。

第2回全学FD研修会

日時:2018年7月4日(水)15時から16時

講師:社会学部 教授 安原 佳子氏

学生支援課 ボランティア活動支援室職員 鳴瀬 剛大氏

内容:要配慮の学生に対する対応-教員ができること-

①障がいの種類と特徴

②授業での対応

③配慮願いは出ていないが、気になる学生に対して

質疑応答



安原 教授



鳴瀬氏

第2回目は、第1回研修会や事前に募集した質問や対応事例について、より良い対応を参加者同士で考え、共有することを目的に実施しました。

寄せられた事例等を集約したところ、今回の研修会では発達障がい・精神障がいに焦点を絞ることとなりました。障がいについての説明の後、場面毎の対応について説明がありました。

質疑応答では、学生への配慮が学生の成長する機会を奪わないかなどの質問があり、講師からは、授業目標に合わせて育てたい点を明確にしてサポートを考える、配慮を要する学生への対応は一律ではないなどの回答がありました。

参加者の感想

- 普段「やる気がない」と片付けていた学生の見方が大きく変わる機会となりました。この機会を活かして授業展開を再検討してみます。
- 「配慮」はあまり難しいものではなく、実行可能なことがわかり、やや安心した。
- 実践方法等のような形での情報共有のしくみが必要なのではないでしょうか。

「授業見学」の実施について

全学FD推進委員会では、大学の重要課題の一つである退学防止に向けて、FDの観点からも取り組むこととなりました。そのひとつとして、授業見学や授業の取組み紹介を実施し、授業の魅力作りのための情報提供を行っています。

この度、第1回目の授業見学を実施しましたので、ぜひご覧ください。

巖 圭介教授「世界市民-世界の持続可能性」

ー穴埋めプリントとスマホアンケートで理解を促進ー

①基本情報

講義科目：世界市民ー世界の持続可能性

担当教員：巖 圭介(社会学部教授)

実施日時：7月4日(水)1限(9:20-10:50)

場 所：1-205

受講者数：87名

講義の到達目標：

- ・本学の成り立ちとその理念について説明できる。
- ・世界が環境の面で持続不可能な状況にあることを説明できる。
- ・「世界の市民」として自分が今後何を学ぶべきかを考え述べることができる。

②当日の講義テーマ：人口急増の時代に、食料増産の限界と分配の問題を考える

③講義の流れ(90分講義)

- ・前回の復習：スライドを用いて(5分)
- ・前回の授業の補足(ビデオ使用)(10分)
- ・前回の授業と今回の内容の橋渡し(15分)
- ・今回の内容(45分)
- ・ビデオによる今日のおさらいと次回の講義に向けて(15分)

④講義のポイント

復習と授業の補足をパワーポイント(PPT)と映像をうまく組み合わせる講義を構築。

- ・PPTも図を効果的に用いて視覚的・直感的に理解できるように工夫。
- ・講義ではプリントも配布。穴埋め形式。PPTや教員の説明を、学生が穴埋めプリントに書き込むようにすることで、授業の理解を促進。
- ・前回の講義での重要な点は何だったかポイントを絞ってとりあげて、丁寧に説明。
- ・前回の論点と今回の内容がうまくつながるような授業の組み立て方(重複学習)。
- ・今回の講義もポイントを明確にして議論。QRコード(Googleフォーム)を利用し、授業で学んだことを、その場で意見集約のうえ、個々の学生の意見にコメント回答を行い、授業理解促進につなげる。



⑤全体の感想

大人数に向けた授業にも関わらず、教員側の一方通行の授業でなかったことが印象的でした。例えば、映像を用いて視覚的に、また、穴埋めプリントを用いて授業に集中させるよう工夫されています。また、教員自身が積極的に学生に質問して、学生が受講しやすい環境になるよう努めているようにうかがえました。最も印象的なのは、受講生が資料に印刷したQRコードをスマホで読み取ってGoogleフォームから問いに対する回答を入力し、それをすぐその場でスクリーンに表示しながら教員がコメントする方法です。これは学生の意見・コメントをその場で集めることができ、授業の理解確認や促進に効果的です。また、教員・学生の双方による意見交換がしやすい環境とすることができる工夫でした。

⑥教員インタビュー

Q1: 授業で工夫しているポイントについて

A1: 90分間の授業の中で、区切りを大切に、受講生が集中しやすい環境作りに努めている。「復習」、「本題」、「次回に向けて」の3部構成で授業展開を意識し、その都度、学生への質問やQRコード(Googleフォーム)を利用した意見集約を行っている。

Q2: QRコード(Googleフォーム)を利用した授業展開が印象的だった。利用しようと思ったきっかけは？

A2: 受講生の意見集約をコメントシートで行っていたが、整理、フィードバックに時間を要していたこと、また、当該授業でのフィードバックができなかったため、QRコード(Googleフォーム)を利用し、タイムリーに行えるようにした。学生の授業に対する興味、業務改善につながっている。

また学生のコメントは、教材サーバーにもアップし、自分の意見以外のコメントも閲覧できるようにしている。

Q3: Googleフォーム利用における良い点、悪い点について

A3: 受講生のコメントをタイムリーに集め、フィードバックできることで、理解促進につながっていると感じる一方、コメントが短文になりがち。手書きの方が、より詳細のコメントを集められていたように感じるため、その点に関して今後、より詳細にコメントがしやすいような工夫が必要と感じている。

秋学期以降も授業見学を実施する予定です。
ご協力よろしくお願いたします。

2018年度全学FD推進委員会メンバー紹介

【委員長】小池誠(副学長)

【委員】田代昌孝(経済学部)、金澤ますみ(社会学部)、岳理恵(経営学部)、尾鍋智子(国際教養学部)、早川のぞみ(法学部・春)、花元 彩(法学部・秋)、井田大輔(共通教育機構選出、経済学部)、竹島亮輔(教務課長)

【事務局】延康之(学長室課長)、東裕(学長室)、平井沙恵(学長室)

発行日 2018年7月31日
発行 桃山学院大学 全学FD推進委員会 事務局
〒594-1198 大阪府和泉市まなび野1-1
電話: 0725(54)3131
FAX: 0725(54)3203
電子メール: zfd-momo@andrew.ac.jp